

ひょうごの福祉

認め合い ともにつながり 支え合う みんなでつくる ひょうごの福祉

2016
3
No.781

P2 特集

「ストップ・ザ・無縁社会」絆つなげる明日へつながる³³
地域の福祉をつくる社会福祉法人

P6 「ストップ・ザ・無縁社会」広がれ!全県キャンペーン

P7 みんなでつくるひょうごの福祉
「医療」と「福祉」の垣根を越えた支え合いの町づくり
～多可町地域包括ケアネットワークの取り組み～

P8 地域を駆ける!ワーカー物語
地域の話をしっかり聴ける
ワーカーを目指して
市川町社会福祉協議会
利根川 拓克さん

P9 シニア世代のいきいきアクティブライフ
地域の輪をつなぐ
「こみち食堂」

P10 ひょうごの福祉NOW

P11 みんなの広場

P12 インフォメーション



3月は「自殺対策強化月間」だよ!



この機関紙は赤い羽根共同募金配分金により発行しています。

小野市

ビッグひなまつり (市立好古館)



「ストップ・ザ・無縁社会」 絆つなげる 明日へつながる^{③③} 地域の福祉をつくる 社会福祉法人

地域社会の変容により、社会福祉の領域が従来の福祉課題から生活課題の領域に広がっている。地域のつながりが希薄化し、社会的孤立などの生活課題が表面化する中で、社会福祉法人が多様な主体と連携して、地域福祉の一翼を担うことが期待されている。県内でも、社会福祉法人による市区町域でのネットワークづくりが進められつつある。

今回の特集では、新たな地域福祉の推進に向けたこれからの社会福祉法人の役割を考える。



地域社会の変容と 地域福祉の新たな展開

「無縁社会」の広がり 生活福祉課題の深刻化

人口減少社会を迎え、単身世帯や高齢単身世帯の増加や厳しい経済・雇用情勢を背景として、地域社会では「地縁」「血縁」などのつながりの希薄化が進み、「無縁社会」と呼ばれる社会状況が広がっている。

一方で、過疎化の進展や公共交通の縮小などにより、従来の福祉課題だけでなく、地域の高齢者や障害者の買い物や通院への支援などが新たな生活課題としてクローズアップされている。このような生活福祉課題が深刻化・複雑化する中で、新たなセーフティネットづくりや、まちづくり活動などと連携した新たな地域福祉の推進方策が求められている。

社会福祉法人による 地域公益活動への期待

現在の社会福祉制度は、その多くが社会福祉法人の先達の優れた

実践から生まれてきた。戦災復興や制度が未整備の時代に、先駆的・開拓的に地域の福祉課題にアプローチし、地域の安心・安全を支えてきた社会福祉法人は、昭和26年、「社会福祉事業法」により初めて法的に位置付けられた。その後、制度や施設整備が進められ、公的補助も充実する一方、社会福祉法人は公的な規制や監督を受けつつ、主として措置事業を担う法人として運営されてきた。

しかし、2000年の「社会福祉基礎構造改革」を契機に、介護保険制度が導入されるなど、従来の措置制度から契約制度に切り替わる中で、社会福祉法人以外の事業者も社会福祉事業に参入し、社会情勢の変化も相まって、社会福祉法人の相対的な位置付けも変化しつつある。

現在進められている社会福祉法人制度改革では、社会福祉法人は法律に定められた社会福祉事業を実施するだけでなく、持てる資源を生かして、地域福祉を進める拠点として、既存の制度の対象とならない課題にも対応していくことが期待されている。



携した設立支援事業や啓発セミナーに取り組んでいる。

地域福祉推進会議 委員長 谷村誠

(社会福祉法人みかり会 理事長)

社会福祉法人の今日的な使命は、社会福祉事業の主たる担い手として本業をしっかりとやりながら、地域の生活福祉課題に対しても目を向けて、その専門性を地域に還元することだと思います。

地域の福祉ニーズに対して漏れない対応を心掛け、住民の地域生活支援を行っていくことが、公益法人としての役割を果たすこととなります。そのためには、単体の社会福祉法人だけで対応するのではなく、種別を越えた横のつながりをつくることです。

私は、このたびの法改正でむしろ、国民の皆さんに正しく社会福祉法人を理解してもらうチャンスをお待ちしています。私も、この仕事を通じて、子ども、お年寄り、ご家族、地域の方々との多様な関わりの中で成長させていきたいと思います。これからも、「一人」「社会」にお返しできれば、と考えています。



地域公益活動の取り組み(神戸市垂水区)

市区町域での社会福祉法人の ネットワークづくり

現在国が進めている高齢者・障害者施策や子育て支援施策、セーフティネット関連施策では、いずれにおいても市区町域や生活圏域ごとに「協議会」を設置し、ニーズに応じた支援やサービスづくりを進めていく方向が示されている。

一方、地域では、社会福祉法人以外にもNPO法人、大学・学校、株式会社、民生委員・児童委員等、多様な主体による活動が展開されており、すでに多様なネットワークが存在している。

特に、「地域公益活動」(地域における公益的な取り組み)は、社会福祉法人の責務として明文化されることとなった。

兵庫県内における 社会福祉法人の取り組み

経営協による 「地域公益活動」の検討

従来の福祉の枠を超えたさまざまな主体が地域福祉に参画する中で、社会福祉法人はその果たしてきた実績を生かしつつ、地域住民の暮らしの質を高め、尊厳が重んじられる地域づくりに向けて、役割を担うことが期待されている。

これを受けて、平成26年度からは、地域住民の生活相談を受ける窓口づくりと、市区町域での「社会福祉法人連絡協議会」の組織化を並行して進めていくこととし、県社協と連

- 地域住民に対して、社会福祉法人の持つ「相談」機能が、十分発揮されているとはいえない。
- 社会福祉法人には、複合的、または制度の狭間の生活課題(ニーズ)の解決が求められている。
- 住民に身近な市区町域において、課題解決のネットワークの構築が求められている。
- 市町村協や行政の関与を促し、地域の公の課題として解決する必要がある。

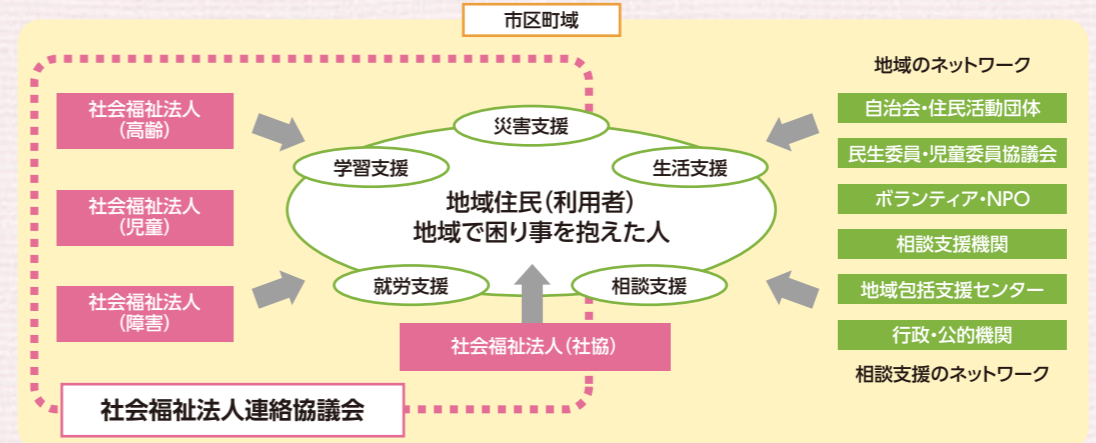
地域社会の変容により、社会福祉の領域が従来の福祉課題から生活課題の領域に広がっている。地域のつながりが希薄化し、社会的孤立などの生活課題が表面化する中で、社会福祉法人が多様な主体と連携して、地域福祉の一翼を担うことが期待されている。県内でも、社会福祉法人による市区町域でのネットワークづくりが進められつつある。



今後は、複数の社会福祉法人が施設種別を超えて連携するとともに、より住民に身近な地域において、社協をはじめ関係機関・団体等とネットワークを形成して、地域のニーズ

に対応できる体制を構築することが求められる。
特に、社会福祉施設が単独で取り組むのではなく、市区町村協や他の社会福祉法人と協働してネットワー

■図表1 社会福祉法人連絡協議会のイメージ



広がる!「社会福祉法人連絡協議会」(平成28年3月現在)

- 南あわじ市：平成26年9月12日設立(9法人参画)
- 神戸市垂水区：平成27年3月17日設立(21法人参画)
- 丹波市：平成27年9月2日設立(17法人参画)
- 佐用町：平成27年11月27日設立(10法人参画)
- 篠山市：平成28年2月1日(10法人参画)
- 神戸市東灘区：平成28年3月11日(予定)
- 神戸市西区：平成28年3月14日(予定)
- 神戸市兵庫区：平成28年3月14日(予定)

※その他にも、類似のネットワークが既にある市町や設立準備中の市町も多数ある。



■図表2 「社会福祉法人連絡協議会」を設立する意義(地域福祉推進会議)

- 地域の方々や活動団体などとの「顔の見える関係」ができる。
- 他の社会福祉施設や公的機関などとのネットワークが広がる。
- 地域で困り事を抱えている人・世帯を適切なサポートにつなげられる。
- 安心・安全な「地域づくり」に貢献でき、社会福祉法人のPRにつながる。など

クを形成し、地域の福祉拠点として、持てる資源や特性・専門性を生かした「地域公益活動」を率先してつくっていくことが望まれる。
このため経営協では、地域から信頼される社会福祉法人を目指し、社会福祉法人の地域公益活動の拡大に向けて、市区町村協が参画した「社会福祉法人連絡協議会(ほっとかへんネット)」の全体的な普及・促進を図る取り組みを進めている。平成27年度末までに、8市区町での設置が予定されており、平成29年度までには全ての市区町での設立を目指していく(図表1・2参照)。

トピックス

兵庫県が進めるモデル事業「地域サポート型特養」

兵庫県が平成25年度から進めている「地域サポート型特養」認定事業も、兵庫県における特徴的な地域公益活動の一つといえる。

この事業は、特別養護老人ホームの拠点機能や専門スタッフ、相談体制などのソフト面を生かし、生活支援員等を配置して、24時間体制で地域見守り活動に取り組む県のモデル事業である。

認定された特養は、地域の高齢者福祉の拠点として、施設の入居者だけでなく、地域で暮らす高齢者が、できるだけ長く在宅で安心して暮らすことができるよう見守り支援を行うという、地域包括ケアの仕組みづくりを進めるものだ。

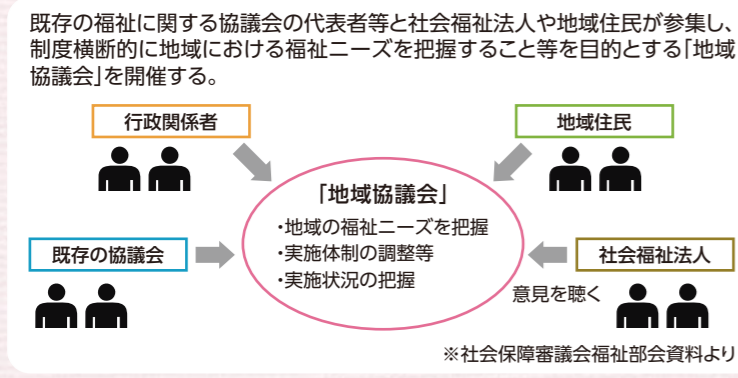
認定された法人には、初年度設備費および賃金の一部助成(3年間)があり、現在44施設が認定されているが、社会福祉法人としての専門性を生かした地域づくりの活動として注目されている。

地域の福祉をつくる社会福祉法人

「地域公益活動」を全体的に進めるために

今回の制度改革では、「地域公益活動」が社会福祉法人の責務として規定されるが、法整備を待つまでもなく、社会福祉法人が本来果たすべき使命といえる。
しかしながら、地域で増大・多様

■図表3 「地域協議会」のイメージ



化する生活・福祉ニーズに 대응するために整備すべき課題も多い。
まずは、地域の実情に応じたニーズ発見の仕組みづくりだ。
社会保障審議会福祉部会では、自治体を中心となり、制度横断的に地域の生活・福祉ニーズを把握する「地域協議会」を設置することを提言しているが(図表3参照)、地域の既存の協議会が多くある中で、屋上屋を重ねることのないよう効果的な設置が望まれる。
特に兵庫県は「日本の縮図」と呼ばれるように、広大なエリアと多様な地域性に富んだ県であり、全県一律の仕組みではなく、市区町村の地域特性やニーズに応じた実践が望まれる。
また、「地域公益活動」の具体的な中身も課題である。国では、「地域公益活動」の内容については、限定して例示しない予定だが、社会福祉法人に提出義務のある「現況報告書」では、地域の単身高齢者等を対象とした「見守り・配食サービス等」「各種相談事業」や、「災害時における各種支援活動」の実施などの項目が列挙されている。いずれの取

り組みも、地域の生活・福祉課題ではあるが、社会福祉法人がこれらを実践していくためには、いくつかの課題もある。
一つには、社会福祉法人の定款に記載されていない事業を行う場合、画一的な制約や過度の行政指導が行われる場合があることだ。また、人員配置基準を超える職員体制が必要となる場合の対応も課題である。
さらに一番のネックとなるのは活動財源だ。地域のニーズは多様であり、制度の狭間の課題も、対象分野・制度ごとに生じている。「地域公益活動」が制度や分野を超えた地域福祉の実践として推進される場合、その財源を横断的・総合的に運用する工夫も求められる。
今後、各市町で設置が進められていく「地域協議会」では、既存の組織やその機能を生かして、多様な主体の連携により「地域公益活動」をはじめとした地域福祉の推進を図られるよう、市町の地域福祉計画等への位置付けなど、基盤となる取り組みが前提となる。

また、社会資源の状況は人口規模や地域特性により異なる。そのため、「地域公益活動」の展開にあたっては、地域のニーズや資源をコーディネートし、情報共有しながら、解決に向けた推進方策を検討していくことも必要であり、コーディネーターとしての社協の役割も大きい。
今、まちづくりは福祉抜きには語れない。社会福祉法人はもとより、自治会やまちづくり協議会、民生委員・児童委員、ボランティア、NPOなどが、地域の一員として協働し、「福祉で地域づくり」に取り組む時代が来ている。
2月号で紹介した垂水区社会福祉法人連絡協議会の取り組みでも、福祉施設と災害復興住宅の住民との協働により夏祭りなどが復活し、地域の活性化につながりつつある。「地域公益活動」は、新しい言葉ではあるが、まさしく「地域福祉」の推進そのものである。社会福祉法人が、他の主体とは違った社会福祉法人らしい役割を再確認し、さまざまな担い手の力を結集していきながら、新しい時代の地域福祉をみんなでつくっていききたい。



多可町では、誰もが安心して暮らし続けることができる町をつくるために、医療・福祉に関する専門職と一緒に地域の課題について話し合う「地域包括ケアネットワーク」の取り組みを進めているよ。フォーラムや出前講座などの開催を通じて、住民にも活動の輪が広がってきているんだ。



みんなでつくる ひょうごの福祉

地域で支え合い、地域を元気にする取り組みを紹介します。

分野を越えた連携が育む 地域の安心

高齢化や単身世帯の増加が進む地域で、介護や健康や生活面に問題を抱える住民をどのように支えるのか。多可町では、福祉サービスや医療を一体的に提供する地域包括ケアの取り組みに先進的に取り組んでいる。中心となって進めてきた多可赤十字病院の松浦尊磨院長は、「本来のケアに立ち返り、医療福祉といった専門分野を越えて、生活を支える視点で連携することが必要」と話す。

「安心して住み続けることができる多可町」を目指して、専門職間の相互理解を深めるための場づくりを始めたのが平成24年9月。月1回、福祉施設や医療機関、薬局、社協、行政の職員等が、職場の課題や問題意識を共有するミーティングを開催した結果、平成25年4月に「多可町地域包括ケアネットワーク」の組織化に至った。

約60人が参加するネットワークのミーティングでは、「高齢者ケア部会」「障害者ケア部会」「保健・医療部

「医療」と「福祉」の垣根を越えた 支え合いの町づくり

～多可町地域包括ケアネットワークの取り組み～

住民主体の 地域ぐるみの活動へ

その後、専門職の連携から機運が高まり、町内の中区中村町では住民有志による「地域包括ケア研究会」が発足した。松浦院長やネットワークのメンバーを講師に招き、困ったときに専門職につながることをできるよう、地域で安心して暮らし続けるための生活支援について学んでいる。さらに、住み慣れた地域で互いに支え合っ



ネットワークで作成した在宅療養のパフレット



住民自らが立ち上げた学びの場
(中村町での地域包括ケア研究会)

会」の3部会に分かれ、それぞれの課題意識に基づき協議を行い、認知症の理解を深める啓発冊子や在宅療養・自宅での看取りの対応法をまとめた冊子の作成、住民への医療や介護に関する出前講座やフォーラム、区長会での説明会などを実施してきた。

暮らし続けるために、「むこう三軒両どなりの地域づくり活動計画」を策定。小地域での見守り活動を自ら推進するとともに、小地域のネットワークとして住民目線の生活課題を専門職と協議していくことも目指している。

「地域包括ケアネットワークをきっかけに、専門職同士が違いを認め合い、共に取り組む体制がつけられつつある。今後はみんなで協議した課題を、行政施策や介護サービスの中に反映していきたい」と松浦院長。専門職・住民が共に考える多可町の地域包括ケアの取り組みにこれからも期待したい。

取材を終えて

現場の専門職同士の顔の見えるつながりから出発した地域包括ケアネットワークが、住民活動とも結びつき進化を続けています。地域包括ケアと地域づくりがつながっている多可町の今後の活動の広がりがとても楽しみです。

多可赤十字病院 地域医療支援センター
多可町中区岸上280
TEL 0795-32-3810



「ストップ・ザ・無縁社会」 広がれ! 全県キャンペーン

<http://stop-muen.jp>

「ストップ・ザ・無縁社会」全県キャンペーンの最新情報や、支え合いのメッセージをお伝えします。

TOPICS

キャンペーンの発展的継続を確認

2月17日、県福祉センターにおいて全県キャンペーン推進協議会の幹事会が開催されました。

今回の幹事会では、過去4年間のキャンペーンの取り組みの成果が報告されるとともに、平成28年度以降のキャンペーンの在り方について協議が行われました。出席者からは、「これまでの取り組みからさらにステップアップしてはどうか」「地域の祭りなども含めた絆づくりに取り組みないか」「キャンペーンとしての目標を設定する必要がある」などの意見が出され、これまでの取り組みを基盤として、新しいステージでキャンペーンを継続する方向性が確認されました。今後は、幅広い分野の団体の皆さんと共に、キャンペーンの新たな展開方を検討することとなります。



つながりの大切さを再確認

尼崎市では、12月19日に「あまがさき地域福祉フェスタ～ささえあい、つながりあえる地域づくり～」が市制100周年プレ記念事業として市社協と市の共催により開催され、約600人の市民の参加がありました。

本フェスタでは「防災」をキーワードに、地域防災の取り組みの事例発表と関西大学准教授の近藤誠司氏による講演が行われました。

会場では、成年後見・介護保険などの相談コーナーや市社協のゆるキャラ「あまりん」との撮影コーナー、社協事業のパネル展示なども行われ、地域のつながりの大切さを再確認する機会となりました。



「支え合いのまちづくり推進フォーラム」を開催します!

推進協議会では、キャンペーンのこれまでの取り組みを総括し、新たな展開に向けた推進フォーラムを開催します。フォーラムでは、シニア世代が地域でアクティブに実践する事例を通じて、支え合い社会の実現に向けた活動を県民に呼び掛けます。奮ってご参加ください!

※開催要綱・申込用紙は専用ホームページ(<http://www.stop-muen.jp/>)で掲載しています。

支え合いのまちづくり推進フォーラム

日時 平成28年3月15日(火) 13:00~16:00

場所 神戸朝日ホール
(神戸市中央区浪花町59番地)

内容 ■実践報告
「私のきらきら☆シニアライフ」
■記念講演
「手をつないで、支え合って」
講師:宮川 花子氏(漫才師)



支え合い、助け合いの地域づくり

たつの市では、1月29日に市社協設立10周年を記念して「福祉のつどい」を開催。社協関係者や一般市民など約550人が参加しました。

本つどいでは、「支え合い、助け合いの地域づくり」を目指して取り組んできた10年の歩みを振り返りながら、地域福祉への理解と推進が一層図られるよう、関係者間で決意が新たにされました。また、つどいでは同市出身のシンガー・ソングライターである小西達也氏による歌と語りのひと時もあり、車いすを使用する自身の体験談から、スロープなどの設備にとどまらない、お互いに「気付く心」の大切さが語られました。



いきいき アクティブライフ

シニア世代が地域住民の一員としてアクティブに活動しているグループなどの事例を紹介します。



地域の輪をつなぐ「こみち食堂」

自分たちのできる範囲で“おいしく・楽しく”

高齢化が進み人口の半数近くが65歳以上となった洲本市外町地区。昭和63年に外町地区愛育班※を立ち上げ、子育て支援活動をしていた野口純子さんは、地域の方がお茶を飲みながら世間話をしたり、誰もが集える場所をつくりたいと思うようになり、平成24年



築140年の町家を改装してできた「こみち食堂」

12月に「こみち食堂」をオープンした。食堂は同じシニア世代の愛育班のメンバーで切り盛りし、献立も全て自分たちで考える。食材は近所の朝市で仕入れた淡路の新鮮な野菜や肉、魚を使用し、体に優しい味付けやヘルシーなものを心掛けている。食堂で働くメンバーの一人は「皆さんほぼ完食です。それが一番の自慢」と満足気。それが自信につながり、自分自身の健康にもつながっていると話す。

また、外町地区で平成24年4月から毎年2回開催しているまちあるきイベント「城下町洲本 レトロなまちあるき」では、全国から観光客が一気に押し寄せ、食堂のメニューの一つである鱧の天丼は大好評を博している。地域の人も観光客も一緒になって、地域の情報を提供しておしゃべりを楽しみながら、コミュニケーションを図っている。他にも、地域の高齢者を招いてのお食事会や健康体操、芝居観劇などの活動も定着してきた。

取材を終えて

取材中も、食堂に来る全ての方に声を掛ける野口さん。食堂が温かい雰囲気包まれていました。これからも新しいことに本気でチャレンジしていくという意欲的な姿勢に期待が膨らみます。

地域の人たちの喜びがメンバーの生きがい

「こみち食堂」では、オープンに合わせて近所の高齢者宅に弁当を宅配し、見守り活動も行っている。弁当は毎朝食堂で手作りしているものだが、夜におにぎりを持って行ったり、おかずだけを買に来たりする人もいて、個々の希望に合わせた活動を続けている。「地域の人が喜んでくれることが、この食堂で働くメンバーの生きがい。一人では問題解決できないが、それぞれをつなげることが私たちの役目だと思っている。私たちが日々元気に頑張ることで、みんなの見本にもなれるのでは」と野口さんは話す。

愛育班の活動の積み重ねから得られた地域の信用を土台にして、地域の間同士で仲良く手をつなぐことから始まったこの活動。今後は、つないだ輪をさらに大きく広げていくため、高齢者が参加できる場所を一つでも多くつくるのが目標だという。これからも工夫を凝らしながら、一歩ずつ着実に活動を進めていく。

愛育班…誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指して、健康づくりや子育て支援などの地域活動を実践している自主的組織



「お待たせしました！」と元気な声が店内に響く

団体の概要

「こみち食堂」
洲本市本町6-3-33 TEL 0799-22-1874
※平成28年4月23日(土)・24日(日)には、洲本市本町の「レトロこみち」周辺で「第9回城下町洲本レトロなまちあるき」が開催されます!

このコーナーでは、県内の社協職員など“地域福祉を進める人々”の活動を取り上げながら、ワーカーとしての想いを伝えます。

地域を駆ける!
ワーカー物語

地域の話をしつかり聴ける ワーカーを目指して

心に残るエピソードは?

独居高齢者等を対象とした病院送迎のサービスを担当していますが、ある日利用者が約束の時間に家から出て来られないことがありました。運転員からの報告で現地向かい、ご自宅を訪問しましたが応答がありません。ご近所の方に尋ねると、「外出された気配はなかった」とのこと。民生委員さんや自治会の役員さんなどにも安否確認にご協力いただきましたが、姿が見えませんでした。「鍵のかかった家の中で倒れてらっしゃるかもしれない。これ以上は放っておけない」と警察に連絡する直前に、ぐっすりお休みだったご本人が起きてこれられ、事なきを得ましたが、一人の方を多く地域の方面で見守っていることが実感できた出来事でした。

力を入れたい活動は?

独居高齢者の方たちを支えるためには、地域での見守りが大きな力となります。福祉委員活動やふれあいサロン活動を活発にすることで、見守りの力を強くしていければと思います。さらには、ふれあいサロン活動から一歩踏み込んで、「サロンに参加できない人」「近所付き合いが苦手な人」を見守るために、地域の方々に見守りの力や傾聴の力を身につけていただき、平時はもちろん災害時にも力を発揮していただけるような地域への支援を広げていきたいと考えています。

大切にしてほしいことは?

日々の仕事で、「話を聴く力」が大切だと痛感しています。話の内容はもちろんです。話の内容で話していらっしゃるのか、また、



「みんなで集まるのが楽しいや」(ふれあいサロン活動)

その言葉にどんな背景があるのかを考えながら聴き、最終的にご本人の暮らしを想像できるように話を聴いていくことが理想だと思います。地域の福祉を支えてらっしゃる方々の話も同じ姿勢で聴き、どうすれば地域が元気になるのかを常に考えながら、仕事に取り組んでいきたいと思っています。

取材を終えて 市川町社会福祉協議会 とねがわ ひろかつ 利根川 拓克さん

Personal History

- 23歳 ボランティアコーディネーターとして市川町社協へ入局
- 25歳 病院送迎サービス兼務
- 31歳 ふれあいサロン活動支援兼務

住民一人一人への接し方、また地域への関わり方について真剣に考えている利根川さん。地域福祉を住民の皆さんと共に進めていこうという思いが伝わってきました。



東日本大震災から5年。県社協ひょうごボランティアプラザでは、1月16日に神戸クリスタルタワーにて標記フォーラムを開催した。宮城県名取市、東松島市から招いた被災者と、大学生をはじめ県内の支援者ら110人が集い、被災地の復興状況や今後の支援の在り方について議論を深めた。



宮城県の被災者と兵庫県からの支援者が語り合ったパネルディスカッション

これからの被災地支援の在り方を議論 「東日本大震災復興支援フォーラム」を開催

東日本大震災から5年。県社協ひょうごボランティアプラザでは、1月16日に神戸クリスタルタワーにて標記フォーラムを開催した。宮城県名取市、東松島市から招いた被災者と、大学生をはじめ県内の支援者ら110人が集い、被災地の復興状況や今後の支援の在り方について議論を深めた。

「地域福祉とまちづくりをともに進める実践セミナー」を開催

地域福祉の担い手不足や生活・福祉課題の多様化が叫ばれる中、本会では平成27年度に「地域福祉をまちづくりとともに進める研究会」(座長・同志社大学永田祐准教授)を設置し、より多くの人が地域福祉に参画できるように、「まちづくり」を意識した取り組みを進める上での考え方を検討してきた。2月15日には、同研究会の検討を踏まえ、標記セミナーを開催し、社協職員47人が参加した。

冒頭、県の柏由紀夫福祉監より、「平成28年度は『地域創生戦略』を具体化する初年度である。今後とも提言を踏まえ、福祉関係者の皆さまと共に、よりよい兵庫づくりを目指したい」との挨拶がなされた。その後、県の新年度予算として、「福祉介護学習プログラム」の開発や、県立武庫荘総合高校への福祉科の新設(平成30年開設)、障害者差別解消法施行に向けた事例集等の発行など、本会の提言内容を踏まえ、重点新規施策等について県からの回答が示された。

政策提言への回答会が開催される

本会が8月に行った「平成28年度の社会福祉政策に関する提言」に対して、2月22日、県民会館にて、県関連部局幹部と本会の社会福祉政策委員会委員が一同に介しての回答会が開催された。

報告された。最後に永田祐准教授より、「住民と共に地域課題を調べたり、当事者と住民が触れ合う機会づくりを進めるなど、社協が取り組んできた『福祉コミュニティ』づくりを今後も目指すことが大切」とまとめられた。



参加者全員で「幸せ運べるように」を合唱し、東北の絆を確認

被災地に寄り添う支援が必要

冒頭の基調報告では、東北大学の村松淳司教授が被災地の現状を説明。「自治体によって復興状況に違いがあり、仮設住宅での生活が長引いている地域がある」「新たな家に移る人、仮設住宅に残される人、それぞれに寄り添う支援が必要」と課題提起が行われた。続くパネルディスカッションでは、被災者から若い人が仮設住宅に訪れるだけでお年寄りが元気になる「阪神・淡路大震災から20年の間、ど

東北の復興から学ぶ

ように復興してきたのかを教えるもらえる心への支えになる」などの発言があった。兵庫県の若者からも、「東北の現状を見て、関西の人々に伝えていくことが大切」などの意見が出され、兵庫から芽生えたボランティア文化を定着させ発展させていくという考えを参加者が共有した。続いて行われた全員ミーティングでは、被災者や支援者がグループに分かれ支援や課題について話し合った。「普段は家から出てこない人も、ボランティアが参加するイベントなどがあると、話をするきっかけになる」「やはり現地に行かないと分からない。これからも支援を続けたい」といった意見が発表された。ファシリテーターの野崎隆二氏(東日本大震災まちづくりアドバイザー)からは、「これからは兵庫県からの支援だけでなく、東北の復興から学ぶ」とまとめられた。最後には参加者が全員で「幸せ運べるように」を合唱。支え合い、学び合うことの大切さが確認された。



第49回兵庫ヤクルト従事者大会(1月23日)の様子

寄付・寄贈のお礼

1月23日、舞子ピラ神戸で第49回兵庫ヤクルト従事者大会が開催され、兵庫ヤクルト販売株式会社から加古川市社協に福祉車両1台が寄贈された。同社は、地域福祉の向上を目指して毎年12月に「福祉ヤクルト運動」を展開し、運動は36年にわたる。平成15年度から始まった福祉車両の寄贈は延べ19台となり、市町村の地域福祉活動に役立てられている。

みんなの広場 兵庫県社協の会員からの情報発信コーナーです

青い想いつながり

世界自閉症啓発デー LIGHT IT UP BLUE Japan 2016

毎年4月2日の世界自閉症啓発デー制定に際して、国連は加盟国などに自閉症(オーティズム)の研究を強化するとともに、保健、教育、雇用などの不可欠なサービス提供を拡充するように促し、全ての人々にオーティズムへの理解と適切な対応を求めています。

この世界自閉症啓発デーでは、日本を含む142カ国以上が、「ライト・イット・アップ・ブルー」(LIUB)キャンペーンでつながり、地球を巡る壮大な光のリレーが行われます。

NPO法人あつとオーティズムは、平成23年より「オーティズムに光をあてる」=「社会のオーティズムへの意識を高め

る」ことを目的としたライト・イット・アップ・ブルー(LIUB)キャンペーンを促進し、日本LIUB大使として活動しています。

平成28年4月2日には、ブルーにライトアップされる神戸港で初めてイベント&バルーンセレモニーを行います。会場は神戸メリケンパークの海洋博物館(神戸市中央区波止場町2-2)の屋上で、先着300人が参加できます。参加者一人一人がブルーの風船に想いを込めて空高く飛ばします。(雨天の場合はFacebookにてお知らせいたします)

【兵庫県の主なライトアップ施設】
神戸ポートタワー、神戸メリケンパークオリエンタルホテル、ホテルオークラ神戸、神戸ハーバーランドモザイク大観覧車、ファンタジー号、いかり山、神戸フラワロード「光のミュージアム」、明石海峡大橋、兵庫大仏能福寺、トリコロール神戸、神戸YMCAファミリーウエルネスセンター、神戸市立国民宿舎シーバル須磨、神戸ポートピアホテル、しあわせの村、明石市立天文科学館、姫路城、龍野城、芦屋市庁舎、三田谷治療教育院、びっくりドンキー西宮今津店(順不同)など

連絡先
NPO法人あつとオーティズム(LIUB Japan 実行委員会事務局)
E-mail world.happy.mamas@gmail.com
URL http://happy-autism.com
Facebook [Light It Up Blue Japan]

アピールしたい活動の
情報をお寄せください。

問い合わせ
兵庫県社協 総務企画部 TEL 078-242-4633 FAX 078-242-4153 E-mail info@hyogo-wel.or.jp

助成金情報

福祉活動等に対する助成金の情報です。詳細は、それぞれの問い合わせ先にご確認ください。

社会福祉法人NHK厚生文化事業団 第28回「わかば基金」

地域に根ざした福祉活動を展開しているボランティアグループやNPO法人の活動を①支援金部門②リサイクルパソコン部門③東日本大震災復興支援部門の3つの方法で支援します。

助成額 ①③1グループ上限100万円(各7グループほどを予定)②1グループ3台まで(総数50台を予定)

締切り 平成28年3月31日(木)必着
 〇〇社会福祉法人NHK厚生文化事業団
 TEL 03-3476-5955
 URL http://www.npwo.or.jp/

日本労働組合総連合会 「連合・愛のカンパ」

NGO・NPO団体などの事業・プログラムへの支援、および自然災害などによる被災者に対する救援・支援を目的に助成を行います。

対象団体 【中央助成】連合の構成組織の推薦があり、国内外で救援・支援活動に取り組むNGO・NPO団体等【地域助成】地方連合会が日常的な活動で連携しているNPO団体等

対象事業 大規模災害などの救援・支援活動、戦争や紛争による難民救済などの活動、人権救済活動、地球環境保全活動、ハンディキャップをもった人たちの活動、教育・文化などの子どもの健全育成活動、医療や福祉などの活動、地域コミュニティー活動(レクリエーション活動を除く)、生活困窮者自立支援活動

締切り 平成28年3月31日(木)
 〇〇日本労働組合総連合会 連帯活動局
 TEL 03-5295-0513
 URL http://www.jtuc-rengo.or.jp/

NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド

2016年度(第14回)ドコモ市民活動団体への助成

「子どもを守る」をキーワードに活動に取り組む市民活動団体に助成します。

対象 日本国内に活動拠点を有する民間の非営利活動団体でNPO法人などの法人格を有するもの、または取得申請中の団体で6月末までに法人登記が完了見込みの団体

助成額 1件あたり上限100万円※標準50万円(総額上限2,500万円予定)

締切り 平成28年3月31日(木)必着
 〇〇NPO法人モバイル・コミュニケーション・ファンド事務局
 TEL 03-3509-7651
 URL http://www.mcfund.or.jp/

公益財団法人木口福祉財団 平成28年度地域福祉振興助成

市民参加型福祉の促進と地域振興を図り、やさしく明るく住みやすい地域社会の創造に資することを目的に助成を行います。

対象団体 障害者を支援する福祉活動、ボランティア活動に取り組む団体

対象費用 新規事業立ち上げに必要な活動運営費、環境整備に必要な各種工事費・物品購入費(車両購入可)、調査・研究・出版費、講演会・講習会等の企画開催費

助成額 1件あたり上限100万円※助成対象費用の80%以内(総額2,000万円程度)

締切り 平成28年4月14日(木)
 〇〇公益財団法人木口福祉財団
 TEL 0797-21-5150
 URL http://www.kiguchi.or.jp/

第6回大阪堺山ロータリークラブ 社会奉仕基金助成金

対象 大阪、京都、兵庫、奈良、和歌山、滋賀県内で社会奉仕活動をしており、本助成を過去4年以内(平成25年6月以降)に受けたことのない団体

助成額 1件上限40万円(合計3団体)
 締切り 平成28年5月30日(月)
 〇〇大阪堺山ロータリークラブ
 ※問い合わせはメールのみで受付
 (osaka.tezukayama.r.c@gmail.com)
 URL http://osaka-tezukayama-rc.cocolog-nifty.com

募集

公益財団法人社会貢献支援財団 平成28年度社会貢献者表彰推薦募集

人々や社会のために貢献された方を①社会貢献の功績②人命救助の功績③その他の功績の部門に分けて表彰します。

推薦方法 下記ホームページの送信フォームまたは郵送で推薦書を送付 ※候補者には、年齢・職業・性別・信条・国籍などの制限はありません

締切り 平成28年4月30日(土)消印有効
 〇〇公益財団法人社会貢献支援財団
 TEL 03-3502-0910
 URL http://www.fesco.or.jp/

行事予定

- 3月 1日 ひょうごボランティア地域づくりネットワーク会議・ひょうごボランティア基金助成事業報告会 ◆神戸クリスタルタワー
 経営協第237回理事会 ◆県福祉センター
 社会福祉法人経営に関する意見交換会 ◆県福祉センター
 ひょうご若年性認知症当事者グループ会議(仮) ◆県福祉センター
- 1日・2日 介護支援専門員 施設職員版研修Bコース ◆県社会福祉研修所
- 2日 市民後見推進会議 ◆県福祉センター
 福祉サービス利用援助事業専門員・担当者会議 ◆県福祉センター
- 3日 ひょうごボランティアプラザ運営協議会 ◆神戸クリスタルタワー
- 7日 第3回権利擁護部会、第3回福祉事業推進部会 ◆県福祉センター
- 8日 第2回福祉の就職総合フェア ◆神戸サンポーホール
 子育て支援員研修(基本研修) ◆県私学会館
- 9日 第3回地域福祉推進部会 ◆県福祉センター
 第3回市町社協活動推進協議会幹事会 ◆県福祉センター
 老人福祉施設中堅職員研修 ◆県社会福祉研修所
- 11日 社会福祉法人 財務管理研修 ◆県農業会館
- 14日 子育て支援員研修(専門研修・地域子育て支援コース) ◆県社会福祉研修所
- 15日 支え合いのまちづくり推進フォーラム ◆神戸朝日ホール
- 16日 社会福祉政策委員会 ◆県福祉センター
- 19日・26日 子育て支援員研修(専門研修・放課後児童コース) ◆武庫川女子大学
- 23日 前頭側頭型認知症の家族交流会 ◆県福祉センター
- 29日 県社協第241回理事会・第187回評議員会 ◆県福祉センター

ホームページは、**どんどん進化**する。

PC・スマートフォン対応のWEBサイトをご提案。

フレキシブルな対応で、お客様の要望を叶えます。



株式会社メックコミュニケーションズ TEL. 078-230-7525
 http://www.mec-com.co.jp



口福美人ランチコース [平日限定]

2016.5.31(火)まで ※4/29~5/8は除く
 11:30am ~ 2:30pm (ラストオーダーは、2:15pm)
 料金 ¥3,500 (サービス料・税金込)

※記載内容は、予告なく変更する場合がございます。
 ※食物アレルギーをお持ちのお客様は、事前にお申し出ください。

ご予約・お問い合わせは
 中国レストラン 蘇州 Tel 078-291-1122

ANAクラウンプラザホテル神戸
 〒650-0002 神戸市中央区北野町1丁目
 Tel 078-291-1121 www.anacrownplaza-kobe.jp

※写真はイメージです。